

慶成高等学校

令和4年度一般入学試験問題

国語

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから12ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 句読点は全て字数として数えてください。
- 6 試験時間は50分間です。
- 7 試験終了の合図で筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにして、机の上に置いてください。
- 8 解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

軸がぶれない、統率力がある、聴く耳をもっているなどといった心得も、たしかに大事であろう。が、この隙間、この緩み、この翳りこそ、ひとの関心を誘いだすものである。組織とはいうまでもなくひとの集団だ。一人ひとりが受け身で指示を待つのではなく、それぞれにそれぞれの能力を全開して動くそのときに、組織はもつとも活力と緊張感に溢れる。ここでわたしは、社員が思い詰めた顔で企画をもってやってくると、いつも大きな声で「やってみなはれ」と言ったおなじ関西の経営者、サントリーの佐治敬三の口癖も思い出す。

上司の命を待つのではなく、一人ひとりがじぶんで考え、タフに行動する組織がいちばん活力がある。そういう意味では、 工 ならないまわしになるが、リーダーがいなくてもいい組織を作れるのが真のリーダーだということにもなるかもしれない。アメリカのある大企業のCEOはリーダーの仕事として「getting things done through others」(「ばんにあげたそうだ。そうだとするとポイントは、リーダーそのひとではなくて、むしろ、仕事をまかされたメンバーがそれぞれに気持ちよく気張れるよううまく調整をするひと、つまりは番頭のような二番手のひとだということになる。」)

(鷲田清一『しんがりの思想』より)

問一 本文中の空欄 ア 工 に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | ア | 感情的 | イ | 楽観的 | ウ | 受動的 | エ | 論理的 |
| 2 | ア | 直情的 | イ | 冒険的 | ウ | 能動的 | エ | 逆説的 |
| 3 | ア | 直情的 | イ | 打算的 | ウ | 受動的 | エ | 飛躍的 |
| 4 | ア | 感傷的 | イ | 打算的 | ウ | 主観的 | エ | 論理的 |

問二 本文中の——線部①「聞いた」を正しい敬語に直して書け。

問三 本文中の——線部②「意表を突く」と近い意味を表すものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 奇想天外 | 2 | 五里霧中 | 3 | 異口同音 | 4 | 針小棒大 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|

問四 本文中の——線部③「ここで注意しいことだ。」とあるが、なぜそのように述べているのか。次の文章の空欄 に入るよう三十字以上、三十字以内でまとめて書け。

本人が成功するかどうかではなく、周囲の人を

ようにすることが大切だから。

問五 本文中の空欄「 」には英文の日本語訳が入る。最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 自分が与えられたと思うことは周りののひとも与えるようにすること
- 2 自分がしたいことをするのでなく周りののひとからの期待に応えること
- 3 自分がしようと思うことを周りののひとが先にやるように仕向けること
- 4 自分が手に入れたものは周りののひとが失ったものであると考えること

(2) 【文章】を読んだ後に【資料】を見て、先生と生徒が話し合っている場面である。後の各問に答えよ。

【資料】

社会人に聞いた「理想とする上司」ベスト4

[男性]

	選んだ理由(%)												
	実力がある	指導力がある	頼もしい	親しみやすい	知性的・スマート	おもしろい	落ち着きのある	明るい	天才肌	優しい	熱血	兄貴(肌)	その他
1 お笑い芸人U	10.9	12.7	16.4	30.9		1.8	10.9			16.4			
2 タレントT	22.6	7.5	13.2	5.7	28.3	5.7	15.1		1.9				
3 野球選手I	41.0	23.1	23.1		10.3				2.6				
4 タレントTJ	2.8	2.8	30.6	25.0	11.1	2.8	8.3	5.6	2.8			8.3	

[女性]

	選んだ理由(%)												
	実力がある	指導力がある	頼もしい	親しみやすい	知性的・スマート	おもしろい	落ち着きのある	明るい	天才肌	優しい	熱血	姉御(肌)	その他
1 女優A	14.1	9.9	42.3		8.5	2.8	1.4		4.2		1.4	15.5	
2 アナウンサーU	14.3	11.9	33.3	9.5	16.7		9.5	2.4				2.4	
3 お笑い芸人I	2.7	2.7	21.6	35.1	13.5	2.7	2.7			8.1		10.8	
4 タレントK	14.3	20.0	45.7	2.9	5.7		2.9			2.9		5.7	

先生 【文章】には私たちが通常思い描くような強いリーダーシップとは少し異なることが書かれているね。【資料】からも同じことが読み取れるだろうか？

生徒A 「選んだ理由」を見ると、それぞれの人で違いはあるけれど、一番多い割合をしめるのが「ア」である人が多いな。やっぱり「強いリーダー」が求められているのかな。

生徒B でも「選んだ理由」の一番多い割合をしめるのが「イ」の方が「実力がある」の人より多いのは興味深いね。【文章】中の三つの条件のうち「愛嬌」に当たるね。

生徒A 本当だ。お笑い芸人やバラエティタレントなどユーモアのある人たちが上位にランクインしているのも同じ理由かもしれない。

生徒B 全員が芸能界やスポーツの世界で成功を収めた人たちだから当然「運が強そう」だしね。

先生 では、最後の条件「後ろ姿」はどうかな。【文章】にあるように「解釈が難しい概念だとは思うけれど」。

生徒A 野球選手Iさんは僕も大ファンだけど、寡黙^③な感じで、言葉よりも背中で語るタイプだと思うよ。

生徒B 女優Aさんを選んだ理由の二番目の割合をしめる「ウ」^④「なんかも「後ろ姿」と言えるかな。

生徒A どの人たちも何も言わなくても、その生き方や仕事に臨む姿勢で私たちに何か刺激を与えてくれるね。

先生 この【文章】【資料】両方を見ても、いい組織を作る、求められるリーダーは本人の実績や能力だけでなく、モチベーター^④の役割を求められているということだね。

問一 空欄 ア に入る最も適当な語句を、【資料】の「選んだ理由」の項目の中からそれぞれ一つ選び、そのまま抜き出して書け。

問二 線部①「しめる」と、次の1〜4の 線を施した部分に適切な漢字をあてるとき、線部①と同じ漢字を用いるものを、1〜4から一つ選び、番号を書け。

- 1 財布の紐をしめる。
- 2 自分の首をしめる
- 3 部屋の扉をしめる。
- 4 勝利に味をしめる。

問三 線部②「解」を楷書で書いた場合の総画数と、次の1〜4の行書の漢字を楷書で書いた場合の総画数が同じものを一つ選び、番号を書け。

- 1 駅
- 2 違
- 3 隅
- 4 極

問四 線部③「寡黙」の読みを、平仮名で書け。

問五 線部④「モチベーター」とはどのような人のことか。十字以上、十五字以内で考えて書け。

二 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

【(一)までのあらすじ】

小説家の私は、妻の春子と娘の佐枝子、「石」と「きみ」という二人の女中(他人の家で、家事や雑用をする女性)とともに暮らしており、娘の健康に対して臆病なほど神経質になっていた。そこへ、感冒(風邪)が流行り始めたため、私は家の者に娘に風邪をうつさないように言い聞かせていた。これはその後には続く場面である。

我孫子では毎年十月中旬に町の青年会の催しで旅役者の一行を呼び、元の小学校の校庭に小屋掛をして芝居興行をした。夜芝居で二日の興行であった。私の家でも毎年その日は女中達をやっていた。然し今年だけは特別に禁じて、その代り感冒でもなくなったら東京の芝居を見せてやろうというような事を私は妻と話していた。

「こんな日に芝居でも見に行ったら、誰でもきつと風邪をひくわねえ」庭の井戸で洗濯をしていた石が縁を掃いているきみに大きい声でこんな事をいっていたそうだ。妻から聞いた。見す見す病人をふやすに決った、そんな興行を何故中止しないのだろうと思った。

私は夕方何かの用で一才町へいった。薄い板に市川某、尾上某と書いた庵看板が旧小学校の前に出してあった。小屋は舞台だけに幕の天井があつて見物席の方は野天で、下は藁むしろ一枚であつた。余り聞いた事もない土地から贈られた雨ざらしの幟が四五本建っていた。こういえば総てが見窄しいようであるが、若い男や若い女達が何となく亢奮して忙しそうに働いているところは中々景気がよかつた。沼向うからでも来たらしい、いい着物を着た娘達が多々にかたまつて場の開くのを待っていた。

帰つて来る途、鎮守神の前で五六人の芝居見に行く婆さん連中に会つた。申し合せたように手織木綿のふくふくした半纏を着て、提灯と弁当を持って大きい声で何か話しながら来る。或者は竹の皮に包んだ弁当をむき出しに大事そうに持っていた。皆の眼中には流行感冒などあるとは思えなかつた。私は帰つてこれを妻に話して「明後日あたりからきつと病人がふえるよ」と云つた。

その晩八時頃まで茶の間で雑談して、それから風呂に入った。前晩はその頃はもう眠っていたが、その晩は風呂も少し晩おそくなっていた。【ア】二人が済んだ時に、

「空いたよ。余りあつくないから直ぐ入るといいよ」妻は台所の入口から女中部屋の方へそう声をかけた。「はい」ときみが答えた。

「石はどうした。いるか？」私は茶の間に坐つたまま訊いてみた。

「石もいるだろう？」と妻が取り次いでいった。

「一寸元右衛門の所へ行きました」

「何しにいった」私は大きい声で訊いた。これは怪しいと思ったのだ。

「薪を頼みに参りました」

「もう薪がないのかい？ ……又何故夜なんか行つたんだらう。明るい内、いくら暇があつたのに」と妻も云つた。きみは黙っていた。

「そりゃいけない」と私は妻にいった。「そりゃお前、元右衛門の家へ行つたところで、夫婦共芝居に行つて留守に決つてるじゃないか。石はきつと芝居へ行つたんだ。二人共いなかつたから、それを頼みに出先へ行つたといつて芝居を見に行つたんだ」

「でも、今日石は何か云つたねえ、きみ。ほら洗濯している時。」

A そんな事はないと思いますわ」

「いや、それは分らない。きみ、お前直ぐ元右衛門の所へいって石を呼んでおいで」

「でも、まさか」と妻は繰り返した。

「薪がないって、今いつたつて、あしたの朝いつたつて同じじゃないか。あしたの朝焚くだけの薪もないのか？」

「それ位あります」きみは「X」【答えた。】「I」

「何しろ直ぐお前、迎えにいっておいで」こう命じて、私は不機嫌な顔をしていた。

「貴方があれ程いつていらつしやるのをよく知つているんですもの、幾らなんでも……」

そんな事をいつて妻も茶の間に入つて来た。

② 二人は黙っていた。女中部屋で何かごとといわしていたが、その内静かになつたので、私は、

「きみは B」弱っているよ。元右衛門の所にいない事を知っているらしいもの。居れば直ぐ帰つて来るが、直ぐでないと芝居へ行つていたんだ。何しろ馬鹿だ。何方にしろ馬鹿だ。行けば大馬鹿だし。行かないにしても疑われるにきまつた事をしてるのだからね。順序が決り過ぎている。行つたら居なかつたから、それを云に行つたという心算なんだ」

妻は耳を敲っていたが、

「きみは行きませんわ」と云つた。

「呼んで御覧」

「きみ、きみ」と妻が呼んだ。

「きみ、きみ」と妻が呼んだ。

「きみ、きみ」と妻が呼んだ。

「はい」

「行かなかつたのかい。……行かなかつたら、早く御風呂へ入るがいいよ」

「はい」きみは元氣のない声で答えた。

「きつともう帰って参りますよ」妻はしきりに善意にとつていた。

「帰るかも知れないが、何しろあいつはいかん奴だ。C

D

そんなうまい事を前に云つて置きながら行つたなら、出して了解しま。その方がいい」

私達二人は起きていようと云つたのではなかったが、おでんちを縫っていた。【ウ】

「行つたに決つてるじゃないか」

「今まで帰らないところを見ると本統ほんとうに行つたんでしようね。本統に憎らしいわ、あんなうまい事を云つて」

私は前日東京へ行つていたのと、少し風邪氣だったので、万一を思い、自分だけ裏の六畳に床をとらして置いた。丁度左枝子が眼をさまして泣き出したので、妻は八畳の方に、私は裏の六畳の方へ入つた。私は一時頃まで本を見て、それからランプを消した。【エ】

間もなく飼犬がけたたましく吠えた。然し直ぐ止めた。石が帰つたなと思つた。戸の開く音がするかと思つたが、そんな音は聞えなかつた。【オ】
翌朝眼をさますと私は寝たまま早速妻を呼んだ。

「石はなんて云つている」

「芝居へは行かなかつたんですつて。元右衛門のおかみさんも風邪をひいて寝ていて、それから石の兄さんが丁度来たもんで、つい話し込んで了つたんですつて」

「そんな事があるものか。第一元右衛門のかみさんが風邪をひいているなら其処そこに居るのだからいけない。石を呼んでくれ」

「本統に行かないらしいのよ。風邪が可おそろいからといって兄さんにも止めさせたんですつて。兄さんも芝居見に出て来たんですの」

「石。石」私は自分で呼んだ。妻は入れ代つて彼方むこうへ行つて了つた。

「芝居へ行かなかつたのか?」

「芝居には参りません」いやに明瞭はつきりした口調で答えた。

「元右衛門のかみさんが風邪をひいているのに何時いつまでもそんな所にいるのはいけないじゃないか」

「元右衛門のおかみさんは風邪をひいてはいません」

「春子がそういつたぞ」

「風邪ひいていません」

「とにかく疑われるに決った事をするのは馬鹿だ。若し行かないにしても行つたらうと疑われるに決った事ではないか。……それで薪はどうだった」
「沼向うにも丁度切つたのがないと云つてました」

「お前は本統に芝居には行かないね」

「芝居には参りません」

私は信じられなかったが、答え方が余りに明瞭はつきりしていた。疾やましい調子は殆どほとんなかった。縁ひびに膝ひざをついている石の顔色は光を背後うしろから受けていて、まるで見えなかったが、その言葉の調子には偽りを云つているようなところは全くなかった。それ故妻は素直に石のいった通りに信じている。私もそうかも知れないという気を持った。が、何だか「 Y 」。調べれば直ぐ知れる事だが調べるのは不愉快だった。後で私は「ああはつきり云うんなら、それ以上疑うのは厭いやだ。……然しともかくあいつは嫌いだ」こんな事を妻にいった。

(志賀直哉『流行感冒』による。ただし一部変更した部分がある。)

(注) 野天：屋根のない所。家の外。 出して丁え：解雇すること。 おでんち：袖なしの羽織。ちゃんちゃんこ。

問一 「 X 」、「 Y 』に入れるのに最も適当な語句を次の 1～4 のうちから一つ選び、その番号を書け。

「 X 」、「 Y 』に入るのに最も適当な語句を次の 1～4 のうちから一つ選び、その番号を書け。

「 Y 」、「 X 』に入るのに最も適当な語句を次の 1～4 のうちから一つ選び、その番号を書け。

問二 本文中の A、D に入れるのに最も適当な語句を次の 1～4 のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を書け。

1 きつと 2 もし 3 まさか 4 もう

問三 本文中の——線部①『明後日あたりからきつと病人がふえるよ』とあるが、「私」がこのように発言した理由はどのような場面を見たからか、それぞれの場面の主語を明らかにして三点に分けて、それぞれ二十五字以上三十字以内で考えて書け。

問四 本文中の——線部②「二人は黙っていた。」について、山田さんと谷川さんはこの時の二人の心情について次のように話し合った。

山田さん この部分の二人というのは、 1 と 2 のことだね。

谷川さん うん。 1 は、女中の石が薪を頼みに行ったことに対して、 3 という発言からもわかるように真実ではないと疑っているね。

山田さん

これに対して 2 は、「……そんなことはないと思います」と発言しているから、 4 ことがわかるね。

(1)

1

、

2

に入る人物を本文中から抜き出して書け。

(2)

3

、に入る語句を本文中から十一字でそのまま抜き出して書け。

(3)

4

に入る語句を二十字以内で考えて書け。

問五 本文中の【ア】～【オ】のうち、次の一文が入る最も適当な箇所はどこか。ア～オから一つ選び、記号を書け。
そして十二時近くなったが、石は帰って来なかった。

三 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

堀河院の御時、勘解由次官明宗とて、いみじき笛吹きありけり。ゆゆしき心おくれの人なり。院、笛聞こしめさむとて、召したりける時、帝の御前と思ふに、臆して、わななきて、え吹かざりけり。

本意なしとて、相知れりける女房に仰せられて、「私の坪の辺りに呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむ」と仰せありければ、月の夜、かたらひ契りて、吹かせけり。「女房の聞く」と思うに、はばかりかたなくて思ふさまに吹きける。世にたぐひなく、めでたかりけり。

帝、感に堪へさせ給はず、「日ごろ、上手とは聞こしめしつれども、かくほどまでは思し召さず。いとどこそめでたけれ」と仰せ出されたるに、「さは、帝の聞こしめしけるよ」と、たちまちに臆して、騒ぎけるほどに、縁より落ちにけり。「安楽塩」といふ異名を付きにけり。

(『十訓抄』による)

(注) ゆゆしき心おくれの人…ひどく気後れをしまう人 帝…ここでは堀河院のこと。

わななきて、え吹かざりけり…震えて吹くことができなかつた。 本意なし…本来の望みではない 坪…庭

仰せられて…「命令なさつて かたらひ契りて…約束をかわして はばかりかたなくて…気後れすることなく めでたかりけり…すばらしかった

感に堪へさせ給はず…感動をおさえることができず いとどこそめでたけれ…とてもとてもすばらしい

問一 本文中の——線部①の「私の坪の辺り立ち聞かむ」とあるが、なぜそのようにしたのか。現代語で二十字以上三十字以内で考えて書け。

問二 本文中の——線部②の「たぐひなく」の読み方を、すべて現代仮名遣いに直し、平仮名で書け。

問三 本文中の——線部③の主語にあたるものを次の1～4より選び、番号を書け。

- 1 堀河院 2 明宗 3 女房 4 筆者

問四 次の□の中は本文を読んだAさんとBさんが会話をしている場面である。□に入る語句を本文中より五字でそのまま抜き出して書け。

生徒 ところで、なぜ「安楽塩」というあだ名が付いたのですか。

先生 それは、この人が緊張してどうなってしまったが関係しているよ。

生徒 帝が聞いていると知って、「□」てしまったことですか。

先生 そう。「□」を漢文で書くと言順が逆になるよ。そして漢字を音読みすると？

生徒 なるほど！だから「楽(ラク)」「塩(エン)」なんですね

四

サトルさんの学校ではサステナブルファッションについての調べ学習を行った。ファッション産業の課題を洗い出したのが【資料1】である。その課題点への対応として、衣類を販売する企業でできることを【資料2】、自分たちができることを【資料3】にまとめた。【資料1】からあなたが気になる課題を一つ選び、その番号を書き、それについて次の〈条件〉に従い作文せよ。

〈条件〉

- 1 文章は二段落構成とする。
- 2 はじめの段落には、選んだ課題を改善するために、企業ができることを【資料2】のA～ウのうち一つを用いて書くこと。
- 3 あとの段落には、はじめの段落に書いたことをふまえて、あなたが共感できる人物を、【資料3】から一人選び、その理由を書くこと。
- 4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、七行以上九行以内で書くこと。ただし、文の数は問わない。

(注) サステナブルファッション：衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのことを言います。(環境省HPより)

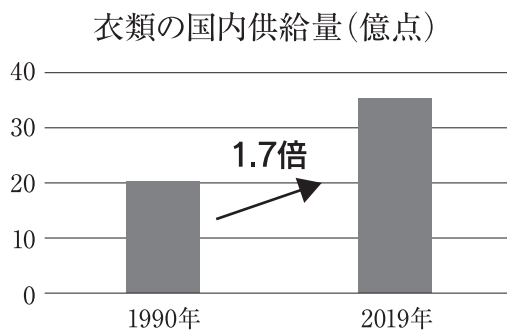
【資料1】ファッション産業の課題



- 1 衣類の生産時には、水の消費量やCO₂排出などの環境負荷が生じている



- 2 捨てられる衣類は年間で約48万トンあり、処理にも環境負荷が生じている



- 3 衣類の大量生産が拡大している

【資料2】企業にできること

- ア 衣類の売れ残りを減らすために注文を受けてから生産する。
- イ 従来よりも環境に優しい方法で栽培されたコットンを使って生産する。
- ウ 処分する衣類が回収しやすいように回収ボックスを置く。



【資料3】自分たちができること

【マイさん】商品のタグを見たり、店員の方に聞いたりして、商品の素材や生産ルートを確認しようと思います。

【マサトさん】衝動的に買うのではなく、デザインや長く着ることができかなどを考えて買おうと思います。

【クミさん】今持っている服を長く着るために、リメイクしたり、修理しようと思います。

【ケンタさん】着なくなった衣類は古着屋に持ち込む、またはリサイクルしようと思います。

